

日常的運営は役割分担によって、なんとか続けることが出来た。一昨年の会費の値上げによって、当面の財政的危機は回避の見通しが立ったと思われる。しかし会費未納者の問題については、解決できたとはいえない状況にあり、加えて研究会を支える会員の多忙化もあり、研究活動の活性化という面ではやや低調であった。また一昨年来の不況に起因する若手研究者・大学院生の経済的困難などの問題も相当程度存在していると考えられる。そういうなかで、2010 年度の研究活動にはこれまで以上の創意・工夫が求められているといえよう。

I. 2009 年度活動報告

*会員数は 276 名（2010 年 4 月現在）。会員数は横ばい。除籍となる会員や様々な理由で退会する会員がいる一方で、大学院生・留学生を中心とする若手層が入会してきており、研究会活動における今後の活躍が期待されるが、

*運営面では、事務局の役割分担、順調に研究会活動が展開されたと考えられるが、今後、更に事務局のあり方を実践的に工夫していくことを通じて、実務や運営を直接的に担う会員を増やし、研究会の日常活動を一層活性化する必要がある。

*以下、各事業項目に従って活動状況を報告する。

(1) 『野草』 刊行について

*第 84 号（2009 年 8 月 1 日刊行／特集／編集担当：今泉秀人／版下作成：平坂仁志）および第 85 号（2010 年 2 月 1 日刊行／編集担当：藤野真子／版下作成：平坂仁志）を予定通り刊行することができた。

*例会・合宿で報告・討論の後に『野草』に執筆するという基本方向はやや崩れてきている。例会報告の枠に限りがある一方で、遠方からの若手の投稿が増加しており、例会報告が充分『野草』執筆につながっていないという傾向も見られる。

*『野草』編集の手引きの改訂はできなかった。

*編集委員会がうまく機能しなかったため、『野草』編集・刊行に関わる中長期的な計画を策定し、基本的にそれに基づいて数年先までの編集担当者を決め、準備に時間がかけられるようにした。合宿と例会との連携を行っているが、さらなる工夫が必要である。

*『野草』の「投稿規程」を改定した。

(2) 『会報』 発行について

*永井英美・井上薫・上原かおり・和田知久・河本美紀・佐原陽子・島由子・津守陽・田村容子・三須祐介・大野陽介・中野徹・羽田朝子・小笠原淳の 14 名と編集担当体制を充実し、第 330 号（4 月）～第 341 号（3 月）まで順調に発行した。遠隔地在住者による編集も、「事務局 ML」を用いた協力体制により順調に行なわれた。

*2 月例会を休止しているため、2 月号を 3 月号発送時に同時発送するやり方を 2009 年度も踏襲した。印刷費の関係もあって設定された「12 頁を限度とする」という原則は守られた。

*「交流」欄の編集について、会員の意識的努力とコンピュータ・ネットワークの活用によって収集する形態は定着している。事務局アドレスへの情報提供が増加したことは喜ばしい傾向である。「例会」記録は、報告者によるレポートという形で定着している。

*遅れ気味ではあるが『会報』メールマガジン版の発行は定着した（2010 年 4 月現在 342 号＝4 月号まで配信済）。形式を作成の面倒な HTML から PDF に変更し、担当者の負担が軽減された。ただし画像を含む場合、ファイル・サイズが大きくなりメールリストでの送付に困難が生じている。パスワード・ファイルの形にして、ウェブサイトからダウンロードする形への移行を検討すべきかも知れない。登録者は、現在のところ延べ 97 件に留まっているが、昨年度より 13 名の増である。印刷版を楽しみにしているという声もあり、当分の間、印刷されたもの（紙媒体版）との 2 本立てが必要である。登録者の拡大は引き続き図る必要がある。なおハーバード大学へのメルマガ配信は実現し、紙媒体の廃止について了承を得た。

(3) 「例会」開催について

*年間 10 回の「例会」を、担当者（濱田麻矢）の尽力によって着実に開催した。通常の研究発表の他、4 月例会で坪井秀人先生（名古屋大学）の講演「二重言語性を生きる——李箱の詩について——」を、12 月例会では著者の参加も得て麻生晴一郎著『反日、暴動、バブル——新聞・テレビが報じない中国』の書評を行った。参加人数は月によってばらつきがあったが、平均すると 20-25 名の会員・非会員が集まった。

*例会参加者は、若手層、留学生を中心に増加しており、比較的定着してきていると思われる。自己の研究報告の場としてのみでなく、専門外の報告を聞いて学ぶという精神も引き継がれている。また遠方からの研究発表者も一定存在した。

*研究発表は、『野草』投稿希望者によるものが半数を上まわり、「例会報告→『野草』掲載→例会での合評」というサイクルがややくずれており、例会報告が必ずしも『野草』掲載につながっているとは言えず、発表後のフォロー体制についての工夫が求められる。

*偶数月の京都会場は同志社大学、奇数月の大阪会場は関西学院大学大阪梅田キャンパスが定着した。

(4)「夏期合宿」について

*夏期合宿は、8 月 31 日～9 月 2 日の 3 日間にわたって愛知県新城市湯谷において、東京 30 年代文学研究会と合同で実施した。参加者は 34 名であった。担当者（大東和重）の尽力により充実した合宿となった。

*

(5)「書評の会」について

*松浦恆雄(責任者)・今泉秀人・西村正男が中心となって、4・6・10 月例会開始前の時間に開催した。従来通り、共通の書評の他に、最近読んだ書籍・論文などの情報交換を行った。

*参加者は総じて多くはないが、新規参加者も一定数存在している。研究会活動にフィードバックすることにより研究会活動全体の活性化につなげる方法を検討していきたい。

(6)映画の会について

*特に活動は行わなかった

(7) 40 年代文学「漂泊」研究会

*2009 年 5 月例会の藤野、三須報告、6 月例会の今泉報告、2010 年 1 月例会の濱田報告は本研究会のテーマに関わるものであった。

(8)「特別事業」関係について

*特に活動は行わなかった。

(9)「野草ネットワーク」について

*レンタルサーバーによる研究会のネットワーク運営が定着した。

URL=<http://c-bungei.jp/bungei.shtml>

E-mail= office@c-bungei.jp

*ウェブサイトは、菅原慶乃が中心となって管理・更新作業を行ない、充実した内容となっているが、ウェブサイトの重要性に比例して、担当者の負担が重くなってきている。

*事務局アドレス office@c-bungei.jp宛のメールを事務局 ML に転送する作業も菅原慶乃が担当しているが、負担軽減のため、別に担当者を設けることが望ましいと思われる。

*「野草 ML」は会員交流の場として、「事務局 ML」は運営に関わる意見交換、実務作業効率化の手段として重要な役割を果たしてきた。「野草 ML」はあまり活発ではなかったが、気軽な情報交換の場として、一定の活用がなされた。

Ⅱ 2010年度活動方針

- *運営体制を更に工夫し、研究会の全般的活動の水準維持と向上につながるよう努力する。
- *大学院生を中心とする若手層および関西在住以外の会員に、主体的・積極的な参加と具体的な役割分担を呼びかける。活動の工夫を続けるとともに、若手層の自主的積極的な提言と取り組みも歓迎したい。
- *研究会活動の活性化には、例会報告や『野草』掲載論文などにおける研究水準の向上が不可欠である。研究会活動総体としての研究の高度化を、より意識的に追求していかねばならない。

1. 各種研究活動について

(1) 『野草』刊行

- *『野草』の刊行は研究会の中心事業であり、刊行を継続し、論文の水準をさらに向上させたい。
- *なお、編集作業においては、『野草』編集の手引きの活用と締切り厳守の徹底により、「原稿審査（査読）」、版下作成を含む全ての編集作業を円滑に進める必要がある。『野草』編集マニュアルを改訂したい。
- *「例会報告→『野草』論文掲載→例会における合評」という流れを基本原則とするが、その主旨は水準の高い論文を掲載していく点にあることを、改めて確認しておく。編集担当者は執筆予定者との連絡を密にし、かつ例会担当者との関係も図る必要がある。また執筆者は最終校正に出席することが望ましく、合評会には必ず出席すること。
- *当面の発行計画は以下の通りである。
 - ・第86号=2010年3月末〆切、2010年8月1日刊行。編集：大東和重（版下：平坂仁志）
 - ・第87号=2010年9月末〆切、2011年2月1日刊行。編集：西村正男（版下：平坂仁志）
 - ・第88号=2011年3月末〆切、2011年8月1日刊行。編集：宇野木洋（版下：平坂仁志）
 - ・第89号=2011年9月末〆切、2012年2月1日刊行。編集：阿部範之（版下：平坂仁志）
 - ・第90号=2012年3月末〆切、2012年8月1日刊行。編集：黄英哲・星名修範（版下：）
 - ・第91号=2012年9月末〆切、2013年2月1日刊行。編集：高橋俊(SUPPORT 大東和重)（予定）

(2) 『会報』発行

- *紙媒体版とメールマガジン版の二本立てで発行する。「例会」開催日程との関係から、2月号はメールマガジン版の配信のみとし、3月末に紙媒体版の2月・3月号を同時発送する。
- *編集担当体制は、この一年間永井英美をリーダー、三須祐介をサブリーダーとする。
- *誌面は12頁までとする。原稿の依頼・採否等は編集者の裁量で行なうが、編集者が必要と考えた場合は、リーダー、サブリーダーに相談し、最終的には事務局の判断に委ねる。
- *会報印刷費はあらかじめ、リーダーにあずけ、年度末に会計との間で清算をおこなう。
- *編集担当は、基本的に担当者の希望に基づいて以下のようにする。2010年4月号（3月末原稿〆切・4月上旬編集作業・4月末発送）=羽田朝子／5月号=小笠原淳／6月号=豊田周子／7月号=田村容子／8月号（合宿会場で発送）=津守陽／9月号=永井英美／10月号=和田知久／11月号=廣島直子／12月号=中野徹／2011年1月号=大野陽介／2月号=河本美紀／3月号=上原かおり／4月号=羽田朝子／5月号=三須祐介／*担当者は原則として担当月の会報を発送するときには立会い、執筆者分の封入、残部処理の確認などを行う。急用などで立ち会えない場合は、京都会場は永井、大阪会場は大野がその代理をする。
- *引き続き内容の充実・活性化を図り、「交流」欄を充実させる。全国の会員にも「野草ML」などを活用して研究情報をお寄せいただきたい。「書評の会」の内容を反映する工夫をする。「例会」記録は、原則として「例会」報告者が執筆する。
- *印刷費削減のため、写真は原則としてワードなどの文書内に読み込んだものを使う。
- *海外研究機関・研究者への贈呈および海外留学生への配送サービスのあり方については、引き続き検討する。会報はPDF化されているので、海外研究機関に贈呈している会報の郵送を停止、メール配信に切り替えることを、時期、通知方法なども含めて事務局で検討する。海外発送担当は好並晶とする。
- *将来のあり方を展望して、メールマガジン版の読者を拡大する。メールアドレス登録の呼びかけを強化する。なお紙媒体版は不要である、という方は事務局まで一報を。メールマガジンの運営は青野が行い、PDFファイルの作成と配信は原則として編集担当者が行う。
- *原稿は、E-mail添付（原稿ファイルと印刷イメージPDF）またはフロッピー入稿（原稿ファイルのフロッピー、外字部分を明記したプリントアウトを同封すること）とする。写真は文書内に読み込む。送られた原稿の返却は原則行なわないが、特別な事情があって返却を希望する場合は、その旨を申し出て、切手を貼付した返信用封筒を同封すること。

【原稿送付先】

・郵送 〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 大阪大学箕面キャンパス青野
研究室気付 中国文芸研究会事務局宛
・Eメール office@c-bungei.jp

(3)「例会」開催

*「例会」開催数は、年間10回とする（2月、8月は例会を行わない）。月の最終日曜日午後1:30より開会することを原則とする。12月は忘年会を兼ねるため、日時は別途定める。

*講演（会員外・他領域・外国人研究者などを含む）・書評を年間各1回程度、『野草』関連報告を数回組み入れる。『野草』合評会（9・3月例会）の討論内容は、次号の『野草』誌上の合評記に反映する。論文執筆者は合評会に出席することを原則とする。

*「例会」担当は濱田麻矢とし、例会の企画と報告希望者の調整を行なう。調整の必要から、希望者は早めに申し込むことを望みたい。コメンテーターについては報告者の申し出があれば検討する。

*会場は、偶数月は同志社大学（京都会場）、奇数月は関西学院大学大阪梅田キャンパス（大阪会場）とする。ただし、状況に応じて会場は変更になる可能性があるため、研究会のウェブサイトをチェックされたし。会場予約は阿部範之（同志社大学）・西村正男（関西学院大学）、二次会会場予約は京都＝、大阪＝が担当する。

*すでに決定している「例会」内容（【例会カレンダー】）は以下の通り。

四月 講演 岡田英樹先生『わたしと「満洲国」の文学研究』 総会

五月 黄媛玲：沈從文の小説「篁君日記」「長夏」における「恋愛」、
金スノグ：建国初期文芸界と“抗美援朝”運動（仮）

六月 鈴木将久、陳麗

七月 鄧捷、樫尾季美

八月 不開催

九月 『野草』86号合評

十月

十一月

十二月 書評（未定）

一月

二月 不開催

三月 『野草』87号合評

(4)「夏期合宿」

*「夏期合宿」は、集中的な研究・交流の場として極めて重要である。大東和重を担当者とする。

・8月末～9月初（2泊3日）に行う予定。詳細は「会報」「ウェブサイト」掲載予定の案内を参照のこと。

(5)「書評の会」

*「書評の会」は、偶数月（京都会場）の「例会」前（午前10:30頃開始）に実施する。研究会活動への反映のさせ方などについても、引き続き検討する。担当は松浦恆雄・今泉秀人・西村正男とする。

(6)「映画の会」

*活動の再開に向け、企画を摸索する

(7)「40年代文学「漂泊」研究会」

*本年も引き続き、本研究会のテーマに関わる研究報告を文芸研例会上で行う予定である。特に夏合宿の大きなテーマの一つを本研究会の3年間の成果として担当する予定となっている。

(8)「特別事業」計画

*会員からの企画を募集する。

(9)「野草ネットワーク」

*コンピュータ・ネットワークを利用した『会報』『野草』編集作業の効率化は定着した。コンピュータ・ネットワークは事務の効率化に留まらず、遠隔地との交流や種々の情報提供・発信手段として、不可欠のものとなっている。昨年度よりレンタルサーバーによる運営となった。担当は青野繁治・菅原慶乃とする。

*『野草』掲載論文の検索を始め、本研究会に関する様々な情報を発信している「中国文芸研究会ウェブサイト」(<http://c-bungei.jp/bungei.shtml>)を、いっそう豊かな内容に充実させていく。

*「野草 ML」(加入手続=事務局 office@c-bungei.jp までメールでアドレスを知らせること。手続が完了すると担当者からそのアドレスに通知がなされる)を活用した会員間の交流にも期待したい。論文・著書などを発表した際には、その情報の提供を是非ともお願いしたい。

2. 運営体制について

*研究会の運営は、事務局、『野草』編集委員会によって行なう。若手層の参加を推進して再編・強化を図る。

(1) 事務局

*事務局は、総会決定に基づき、研究会活動の日常的な実務を担当する。事務局構成メンバーと担当は以下の通り。(あいうえお順)青野繁治(事務局長、ML サーバ管理、メルマガ)・阿部範之(京都会場予約、『野草』89号編集)・井上薫(会報編集)・今泉秀人(普通口座出納担当、書評の会)・上原かおり(会報編集)・宇野木洋(『野草』88号編集、特別事業・京都二次会場予約)・小笠原淳(会報編集)・大東和重(合宿、『野草』86号編集)・大野陽介(メール便大阪・会報編集・大阪会場二次会予約)・河本美紀(会報編集)・絹川浩敏()・黄英哲(海外交流、『野草』90号編集)・斎藤敏康(特別事業)・佐原陽子(会報編集)・島由子(会報編集)・菅原慶乃(ウェブサイト管理)・津守陽(会報編集)・豊田周子(会報編集)・永井英美(会報編集担当リーダー・メール便京都)・中野徹(会報編集)・中野知洋(ML サポート)・西村正男(『野草』87号編集、書評の会・会場予約)・羽田朝子(会報編集)・濱田麻矢(例会)・平坂仁志(野草印刷)・廣島直子(会報編集)・藤野真子(振替口座および名簿管理)・松浦恆雄(特別事業、書評の会)・三須祐介(会報編集サブリーダー)・好並晶(刊行物海外発送)・和田知久(会報編集)。

*事務局の住所および電話番号は以下の通り。

〒562-8558 大阪府箕面市粟生間谷東 8-1-1 大阪大学箕面キャンパス 青野研究室気付

(2) 『野草』編集委員会

*『野草』編集委員会は、『野草』編集と刊行全体に責任を持ち、また「原稿審査(査読)」のあり方などをはじめ、中長期的な課題について検討を行なう。編集委員は、事務局構成員を中心に会員のなかから、適宜選出する。編集委員会は投稿論文の審査を行い、査読を手配する。また『野草』の編集、投稿規程の策定などを行なう。

*『野草』編集委員会は、必要に応じて、事務局と相談し、編集担当者が招集する。

(3) 会計監査

*財政の健全な執行を図るべく会計監査を置く。会計監査は岡田英樹とする。